

2025/07/10

和訳版

## [ファイナル・リポート]

### 第 41 回 ミラノ・ウニカ： 海外来場者数、二桁増（+10%）を記録。

**ミラノ・ウニカは高級素材及び服飾資材市場を牽引する国際見本市としての確固たる地位を築いた。**

2025年7月10日・ミラノー第41回 ミラノ・ウニカ が開催され、2026-2027年秋冬シーズン向けのメンズ・レディース・子供服向け高級素材及び服飾資材のコレクションが披露されました。今回は海外来場者数が前年比（2024年同時期比）で+10%と大幅に増加し盛況のうちに閉幕しました。海外来場者の国・地域別での増加は以下の通りです：

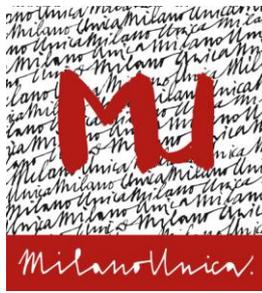
- オランダ：+46%
- ドイツ：+33%
- イギリス：+23%
- アメリカ：+16%
- フランス：+14%
- 日本：+9.5%

一方で、中国は前年比-3.5%、韓国は-14%と減少しました。

また、出展者に関しては全体の内海外出展者が45%を占めました。詳細は以下の通りです：

- **出展者数：735社**：内 Ideabiella、Moda In、Shirt Avenue 出展者：584社（+2.6%）
- **イタリアからの出展者：459社**（前回から継続し安定した数字）
- **欧州（イタリア以外）からの出展者：+8.7%の増加**
- **上記に加え Special area, Japan Observatory, Korea Observatory 含めた出展者:134社**

ミラノ・ウニカ会長、シモーネ・カンクリーニ氏は次のようにコメントしています。「開催直前には国際的な参加について懸念がありました。というのも地政学のおよび経済的に世界情勢が複雑かつ厳しい状況にあるからです。しかしながら、第41回ミラノ・ウニカはマーケティングおよび商業プロモーションのグローバル・プラットフォームとしての役割をさらに強化しました。EU内外を問わず、“メイド・イン・イタリア”のテキスタイルと服飾資材の主要輸出市場のほぼすべてから前向きな反応が得られました。真の成果が表れるのは2026年になるでしょうが、良い結果になることを願いつつ、出展者からのビジネス面での手応えや来場バイヤーに関する評価を受け、我々は将来に対して慎重ながらも楽観的な見通しを抱いています。」



ミラノ・ユニカ会長は、第41回ミラノ・ユニカの開会式において、過去2回の開催で達成された重要な成果を振り返り、実現に導いたすべての関係者、特に出展者、執行委員会、そしてジェネラルマネージャー、**マッシモ・モジエツロ氏**率いるスタッフに対して感謝の意を表しました。

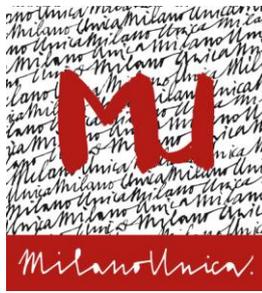
公式挨拶の中で、ミラノ県知事**クラウドイオ・スガラーリア氏**は、ロンバルディア州において関連する公的機関、労働組合、業界団体により最近署名された「ファッション業界のサプライチェーンにおける調達契約の適法性に関する覚書」の重要性に触れ、他の地域の機関にもこの取り組みに倣うよう促しました。ミラノ市議会議長の**エレナ・ブセーミ氏**は、ジュゼッペ・サーラ市長の挨拶を代読し、「メイド・イン・イタリア」の製造業の成功におけるファッション産業の重要な役割と、ミラノがこの象徴的なイベントの開催地として果たしている中心的な立場を評価しました。

イタリア貿易促進機構（ICE）の**マッテオ・ゾッパス会長**は、ビデオメッセージを通じて「繊維輸出の減少により厳しい滑り出しとなった2025年のスタート」に対する懸念を表明し、「業界を支えるためのリソースへの投資を継続する必要性」を強調しました。また、世界中の主要市場から110名のバイヤーがミラノ・ユニカに來場していることは、ICEが引き続き業界支援に尽力している証であると述べました。

エルメネジルド ゼニア グループの第4世代であり、チーフ・マーケティング・デジタル&サステナビリティ・オフィサーを務める**エドアルド・ゼニア氏**が、『Il Giornale』副編集長であり『Quarta Repubblica』の司会者でもある**ニコラ・ポッロ氏**のインタビューに応じました。ゼニア氏は、ファミリービジネスにおける世代交代と、自身が企業の進化にどのように貢献しているかについて語りました。一方、ペイン・アンド・カンパニーのシニアパートナーでありグローバル・ファッション&ラグジュアリー部門の責任者である**クラウドイア・ダルピツィオ氏**は、ラグジュアリーマーケットの現状と今後の展望について意見を述べました。

エドアルド・ゼニア氏は、現在第4世代に受け継がれるゼニア社の歴史を辿り次のように語りました。「初代は曾祖父エルメネジルド・ゼニア氏で、1910年に創業し、企業の基礎とビジョンを築き、第2世代は国際展開を進め、完成品の製造を導入しました。その後第3世代である父ジルド氏と叔父たちは、ブランドを確立し、繊維業界全体に対するより広いビジョンを打ち立てました。そして今、第4世代の役割は新たな製品を追加することではなく「感情的かつ体験的な価値」を導入することです。つまり、単に高価なものと、内在する価値によって本当に価値のあるものとの違いを消費者に理解してもらうことがその使命とされています。」

クラウドイア・ダルピツィオ氏は、現在の状況と2008年危機との類似点を指摘しながらも決定的な違いとして「中国の役割」を挙げました。当時中国は「メイド・イン・イタリア」のサプライチェーン全体にとって、まさに命綱のような存在でした。しかし現在では、多くのラグジュアリーブランドが根拠の乏しい価格引き上げを行っている中、上流工程のサプライチェーンにはもはやそのような救済策がありません。「かつて私たちが知っていた中国はもう存在しません。当時の中国は、ハイエンド市場において非常に重要な役割を果たしていました。というのも、中国の消費者にとってラグジュアリー商品の購入は“成功の象徴”であり、政治的リーダー層もこの傾向を後押ししていたからです。しかし今や状況は根本的に変化しました。中国政府は初めて、経済減速の中での若年層の失業問題という課題に直面しています。インドや中東といった新たな市場が台頭しているのは事実であり、大きな可能性を秘めています。これらの市場への参入はより困難です。アメリカについても状況は楽観的とは言えませんが、改善の兆しが見え始めています」とダルピツィオ氏は説明しました。



開会初日、ミラノ・ウニカ会長は、閣僚評議会副議長兼外務大臣アントニオ・タヤーニ氏および企業・メイドインイタリア省大臣のアドルフォ・ウルソ氏から出席できなかったことに対する謝意と祝辞を受け取りました。副首相のタヤーニ氏は総来場者数およびヨーロッパからの出展者数において新記録を達成したことを称え、次のように述べました。

「ミラノ・ウニカは、業界におけるトップクラスの見本市としての地位を改めて証明しました。これは卓越したノウハウを体現する素晴らしいショーケースです。政府は今後も、成長と競争力の強化を推進し、更に高い目標の実現を支援する覚悟をもって取り組んでいきます。」

**ウルソ大臣も、達成された成果を称賛し、次のように述べました：**

「ファッションおよび繊維産業は、我が国の生産・製造業の中で戦略的な要となる分野であり、全国に4万社以上、40万人超の雇用を支えています。2024年には、業界全体で約650億ユーロの売上高を記録し、貿易黒字は114億ユーロに達しました。我々のファッション産業は、特にフランス、ドイツ、スペイン、アメリカにおいて世界的に高い評価を受けるイタリアの卓越性の象徴です。アメリカにおいては、トランプ氏による関税政策の発表にもかかわらず、2025年初頭には輸出が18.4%増という有望な伸びを見せています。また中国は現在、イタリアのファッション及び繊維製品輸出の10%を占める戦略的市場となっており、その成長傾向は続いています。」

「企業・メイドインイタリア省」では現在、『偽造対策および適法性に関する協定』の策定を進めており、「メイド・イン・イタリア」の真の価値と正規性を国際的に守ることを目的としています。これには農産物以外の製品にも地理的表示(GI)保護制度のラベリングを拡張する取り組みも含まれています。」

ミラノ・ウニカのジェネラルマネージャー、マッシモ・モジエツロ氏は次のように締めくくりました：

「今回の素晴らしい成果は、カンクリーニ会長が強調したようにチームワークの賜物でありミラノ・ウニカが繊維・ファッション業界を支える戦略的存在であることを改めて証明しています。このことは、Mare di Moda とのパートナーシップにも表れています。出展者が提供する創造性、持続可能性、そして製品の品質に加えて、私たちは常にサービスとホスピタリティの向上に努めています。」

又ミラノ・ウニカへの参加はビジネスだけでなく、インスピレーションに満ちた意義ある体験となるよう、商談や洞察の共有、そして特別な瞬間を提供したいと考えています。その一例として、水曜日の夜にミラノ・スカラ座で出展者とゲストの皆様へ贈ったバレエ『白鳥の湖』の特別公演は、まさに記憶に残るひとときでした。

今回の成功はイタリア外務・国際協力省、およびイタリア貿易促進機構(ICE)による継続的かつ貴重な財政的・組織的支援のおかげです。また、信頼するパートナーであるバンカ・セッラ、ラウレターナにも変わらぬご支援を戴きましたことを心より感謝申し上げます。」

#### 【詳細情報】

Milano Unica Press Office (Tel. +39 02 6610 1105)

Alessandra Ardenzi (M: +39. 335.677.46.20)

Daniela Scardi (M: +39 3661964979)